

共同放牧場利用農家における牛白血病の現状と課題

三八地域県民局地域農林水産部八戸家畜保健衛生所

○松崎綾美 中村紀文

近年、全国的に地方病性牛白血病（EBL）の発生が増加。管内では肉用牛での発生が多く見られる傾向。肉用牛農家（農家）の多くが共同放牧場（放牧場）を利用していることから、放牧場利用農家における牛白血病ウイルス（BLV）感染状況を調査。A町の4放牧場を利用している49戸（Aグループ）及びB町の1放牧場を利用している7戸（Bグループ）のBLV抗体検査を実施。Aグループでは2歳未満の牛の陽性率は41%（22/54）、うち自家産は36%（14/39）、導入牛は53%（8/15）、加齢に伴い陽性率が上昇。Bグループの2歳未満の陽性率は11%（2/19）、うち自家産は8%（1/12）、導入牛は20%（1/5）。両グループを合わせた2歳未満の自家産牛で、抗体陽性牛の産子の陽性率は42%（13/31）、陰性牛の産子の陽性率は8%（1/12）。BLVに対する知識や意識を調査するために44戸の農家でアンケート調査を実施。約6割の農家はEBLの病態やBLV感染に対する知識があり問題意識を持っていたが、そのうち約3割の農家で「対処の仕方がわからない」等の回答。放牧場を利用している農家に対し、個々の農家に対応可能な具体的な感染防止対策を検討。今後、関係者との連携のもと地域ぐるみで清浄化を推進していく所存。